

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： (一般社団法人) しなの福祉教育総研	所在地： 長野県上田市真田町長 6918-1
評価実施期間：令和1年8月10日から令和1年10月25日 *契約日から評価結果の確定日(通常、評価結果報告会日)まで	
評価調査者(評価調査者養成研修修了者番号を記載) B16023 B18054	

2 福祉サービス事業者情報(令和1年11月現在)

事業所名：社会福祉法人 上田明照会 (施設名) ともいき 宝池 和順	種別： 生活介護事業
代表者氏名：横内 浄真 (管理者氏名) 大野 政博	定員(利用人数)：30名 現員37名
設置主体：社会福祉法人 上田明照会 経営主体：社会福祉法人 上田明照会	開設(指定)年月日： 平成24年4月1日
所在地：〒386-0011 上田市中心北二丁目7番3号	
電話番号： 0268(27)6633	FAX番号： 0268(23)5081
ホームページアドレス： http://ueda-meishoukai.or.jp/	
職員数	常勤職員：5名 非常勤職員 7名
専門職員	(専門職の名称) 施設長 1名 生活指導員 5名
	生活支援員 4名 看護師 1名
	栄養士 1名(兼務)
施設・設備 の概要	(居室数) (設備等)

3 理念・基本方針

<p>○法人基本方針 設立時の基本理念である「浄仏国土・成就衆生」(社会環境の浄化と円満な人格の形成)の実現を図り、地域における福祉社会の形成と発展に寄与する。</p> <p>○運営方針 基本方針をふまえ、利用者個々のニーズに対して適切なサービスを提供し、心身ともに成長され、地域社会の一員として、より豊かな生活が送れるように支援するとともに、地域の福祉向上に貢献することを目的として運営する。</p> <p>○事業所運営方針 上田明照会設立の基本理念及びともいき宝池和順運営規程をふまえ、次の点に力を入れる。</p> <p>1. 基本的な生活スキルの向上及び生活の楽しさを味わえる支援に努める。</p>
--

- 2. 生産活動を通して喜びや生きがいを持てる支援に努める。
- 3. 心身の健康促進に努める。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

○法人は、大乘仏教の根本的精神である「浄仏国土・成就衆生」を設立理念に掲げ、福祉国家の建設を目標に取り組みされ、円満な人格形成は、社会環境の浄化にあるとして、賛同する方々と大正7年に信仰団体として創設されました。日々の生活に喜びを感じ、一日を精進のうちに過ごせたことを感謝する信仰心は単なる観念的なものであってはならないと強い思いを掲げられていました。社会環境の浄化は、児童の健全な育成にその出発点があると大正8年に子供会(日曜学校)を設立、その後社会奉仕の事業を推し進められてきました。

○事業所の宝池和順は、利用者の生活、職業的自立の促進のため、個々の能力に応じた支援に取り組まれていました。

- ①働くことに生きがいや喜びが持てる生活支援。
- ②仲間と協力し合い、集団生活の中で仲間意識を養うための支援。
- ③社会生活や職業自立に必要な知識、技術、態度を身につけるための支援。
- ④健康な身体と明るい人間性の育成に努める支援。

○支援の内容と重点目標には、①記録の充実 ②生活活動の可視化と情報の共有 ③生活支援活動の充実、家族と地域との連携 ④法令遵守と秘守義務の堅持と具体的に明記され取り組まれていました。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初 回 （令和1年）
---------------	------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

①利用者主体の支援が行われていました。

○利用者本人の持てる力が発揮できるよう、ニーズに沿った支援サービスがされていました。生産活動は、《自主生産活動》《受託生産活動》がそれぞれ4から5活動があり、利用者の希望と持てる力が発揮されていました。自主生産活動の喫茶による接待作業・クッキー製造は人気があり、曜日ごとにかかわれる工夫がとられ、皆が張り合いを持てる支援がされていました。

○生活支援活動には、利用者の生活を豊かに、楽しくなる活動が多く取り入れられ園芸、音楽、絵画、創作、書道等芸術活動、手芸・園芸・料理と幅広く行っていました。誰でもが持っている可能性にチャレンジできる様な機会の設定がされていました。作品は、味遊カフェギャラリーで展示され、自己実現の場を提供していました。

○土曜日は、外出支援があり、自分で得たお金で、買い物や映画、外食を楽しみ、地域社会での関わりができていました。訪問調査で生き生きとした表情が感じられました。

②職員の質の向上に努めていました。

- 知的障がい者を中心に身体・精神それぞれの障がいに応じた支援を行うため、法人内の研修だけでなく、長野県知的障がい福祉協会等の外部機関が開催する研修や勉強会に積極的に参加し全職員が質の向上に取り組まれていました。今回の聞き取りには、視覚障がい者の受け入れを行い寄り添い支援に取り組まれていました。
- 業務に必要な各種資格取得を奨励し、研修等の参加に配慮がされていました。

③地域貢献活動に法人全体で取り組まれていました。

- 法人は、相談専門機能「相談支援センターほっと・心の相談室ハート・発達育児と家族の応援室・地域福祉応援」等の体制を整え地域福祉のニーズに積極的に取り組み、地域福祉の向上に貢献されていました。
- 法人は、「こどもカフェ」として、子どもの貧困支援を実施し無料学習教室やこども食堂・一人親支援・ひきこもり支援に取り組まれていました。
- フードドライブにも取り組み、他法人と連携し緊急に食料支援の必要な方に食料や食品の提供を行っていました。東日本震災直後には、全国から支援物資の提供を受け、避難所に提供するなど「もったいないからありがとうございます」取り組んでいました。
- 事業所においては、てとてと市・味遊カフェギャラリーを開催し地域の誰もが立ち寄り、作品購入やコーヒーが楽しめる交流の場がありました。

④虐待・人権侵害の防止活動に積極的な取り組みがされていました。

- 法人虐待防止対応規程に則り虐待防止体制が整備されていました。
- 虐待などの申し出には、担当者、委員長、第三者委員等と本人の了解のもと話し合いが行われるシステムがあります。また、市町村、県にも報告される記載がありました。
- 職員の意識を高めるために、毎年9月を「虐待防止推進月間」と定め研修の実施や職員チェックリストによるセルフチェック、自己評価等具体的な取り組みがされていました。

⑤防災（土砂災害）に取り組みがされていました。

- 法人事業所の3か所が土砂災害警戒区域に指定されており、対応マニュアルが作成され、土砂災害の発生または恐れのある場合の対応が必要となり災害から人命を守るとともに被害の軽減に資することとされていました。
- マニュアルは、事業所・利用者・職員等全ての方が対象とされ、定期的に見直しや検討がされていました。
- マニュアルには、基本情報、平常時の備え、緊急時の行動（利用者の帰宅後の確認）が記載され、災害への注意事項が21ページにも及ぶ物が作成され対応されていました。

◇特に改善する必要があると思う点

①中・長期計画の年度及び、数値目標の具体化を望みます。

- 100周年を迎えられ、101年からの宝池和順としての中・長期計画の立案をされ、

数値化された具体的な計画を希望いたします。

②安全安心のある事業所を希望いたします。

○利用者が生きがいや張り合いを持たれて活動されています。視覚障がい者・今後車いす利用者が利用できる安全なスペースの提供を望みます。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目（別添 1）
- ・ 内容評価項目（別添 2）

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添 3－2）

- * 有効回答者数が 10 人未満の場合（利用者総数が、20 人未満の事業所にあつては、有効回答者数が利用者総数の半数未満の場合）は、回答結果を公表しない。その場合の、表記は、次のとおりとする。

長野県福祉サービス第三者評価事業評価結果取扱要領第 2 条第 1 項の規定により、有効回答者数が 10 人未満のため（有効回答者数が利用者総数の半数未満のため）、非公開とします。

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）